

令和6年度第2回 中原区地域包括支援センター運営協議会 会議録（摘録）

1 日 時 令和7年2月28日（金） 午後1時15分から午後2時30分まで

2 場 所 中原区役所501会議室

3 出席者

(1) 委 員

村田委員、吉武委員、新堀委員、田中委員、亀井委員、長友委員、中村委員（7名出席）

(2) 事務局

川島地域みまもり支援センター長（中原福祉事務所長）

地域支援課：梅澤課長、衣袋係長

高齢・障害課：前村課長、井上係長、小松田職員

(3) 地域包括支援センター

佐藤センター長（すみよし地域包括支援センター）

佐藤センター長（地域包括支援センターこだなか）

松林センター長（ひらまの里地域包括支援センター）

水野センター長（みやうち地域包括支援センター）

横山センター長（いだ地域包括支援センター）

石塚センター長（とどろき地域包括支援センター）

4 欠席者

往田委員

5 議 事（公開）

(1) 地域包括支援センターの現状と中原区課題整理シートについて

(2) 令和6年度各地域包括支援センターの取り組み状況について

(3) その他

6 審議経過

<p>開会 13:15 (前村課長)</p>	<p>お待たせいたしました。定刻になりましたので、只今より令和6年第2回中原区地域包括支援センター運営協議会を開催させていただきます。</p> <p>私は本日の進行役を務めさせていただきます、高齢障害課長の前村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>(前村課長)</p>	<p>それでは開会にあたり、地域みまもり支援センター所長であり、中原福祉事務所所長であります川島よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>挨拶 (川島所長)</p>	<p>所長挨拶</p>
<p>委員紹介 (前村課長)</p>	<p>それでは、次に各委員のお名前と所属団体を名簿順にご紹介させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に川崎医師会の村田委員 ・川崎市歯科医師会の吉武委員 ・川崎市鍼灸マッサージ師会の往田委員 ・川崎市介護福祉士会の新堀委員 ・中原区民生委員児童委員協議会の田中委員 ・中原区介護支援専門員連絡会の亀井委員 ・市民公募委員の長友委員 ・同じく市民公募委員の中村委員でございます。 <p>このうち吉武委員、往田委員、新堀委員以外の方は新任の方となっております。</p>
<p>包括職員の紹介</p>	<p>つぎに中原区地域包括支援センターの職員を紹介いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみよし地域包括支援センター 佐藤センター長です。 ・地域包括支援センターこだなか 佐藤センター長です。 ・ひらまの里地域包括支援センターの松林センター長です。 ・みやうち地域包括支援センター 水野センター長です。 ・いだ地域包括支援センター 横山センター長です。 ・とどろき地域包括支援センター 石塚センター長です。 <p>最後に私、高齢障害課長の前村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>資料確認 (前村課長)</p>	<p>それでは本日の資料の確認をお願いいたします。</p> <p>以下資料確認</p>

<p>協議会の目的等 説明</p>	<p>以上でございます。 資料の不足はございませんでしょうか？</p> <p>さて、まず本協議会でございますが、介護保険条例第5条及び川崎市地域包括支援センター運営協議会規則に基づき行われ、地域包括支援センターの設置運営に関する事項や区内の地域課題の抽出、高齢者の見守り体制の構築に関する事項についてご審議いただく場となっております。</p> <p>次に本日の会議録ですが、要約方式により作成することとしてよろしいでしょうか。また会議録作成にあたりましては発言者がわかるように委員名を記載するものとし、委員の皆様を確認していただいた後、公開の手続きをとらせていただきます。併せて公文書開示請求等があった場合には、委員名は原則開示されることとなりますのでご承知おきください。</p> <p>加えて本日の会議録作成のために録音させていただくことをご了承ください。なお、本日は委員の過半数の出席をいただいております。協議会規則第4条第2項の規定を満たし会議が成立しておりますことをご報告いたします。</p>
<p>村田会長への議 事引継ぎ</p>	<p>これより先の進行については「川崎市地域包括支援センター運営協議会規則」第4条第1項の規定に基づき、村田会長に議長をお願いいたします。</p>
<p>議事 村田会長</p>	<p>それでは議事に入ります。</p> <p>本日の会議につきましては「川崎市審議会等の会議公開に関する条例に基づき公開の手続きをとっております。</p> <p>本日の傍聴人はおりますでしょうか？</p>
<p>井上係長</p>	<p>いらっしゃいません</p>
<p>村田会長</p>	<p>わかりました。</p> <p>それでは議題に入らせていただきます。</p> <p>1つずつの議題を事務局から説明のあと、御意見等をいただく形で進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか</p>
<p>各委員</p>	<p>了承</p>
<p>村田会長</p>	<p>それでは、議題「(1) 地域包括支援センターの現状と中原区課題整理シートについて」、事務局から説明をお願いします。</p>

井上係長	<p>事務局説明</p> <p>また、前回長友委員から特別養護老人ホームの待機状況というところでご質問がありましたので、そちらについて情報提供させていただきます。</p> <p>事業者を確認いたしました。川崎市全体の人数は2200人前後で推移しているという事でございます。そのうち約250人位が中原区民であるというところ。新規施設の開設や増床、申込者数の減少によって数年前と比べて減少傾向であるとのことでした。ただ、今後中長期の人口動態や介護技術を継承するということを抑えて、介護サービス基盤の整備を進めてございます。ちなみに特別養護老人ホームについては市全体として、令和5年度末から令和8年度末までに296床の増床とのことでした。</p>
村田会長	<p>ありがとうございました。只今、事務局からの報告がありましたが、何か御意見などがございましたらお願いします</p>
長友委員	<p>先ほどは前回の質問にお答えいただきありがとうございました。それに付随した質問ですが、先ほど中原区でも250名の待機者がいるという話でした。その250名の方は特養に入るまでの期間、さらには待機している場所はどこに待機しているのか、調査や把握しているのかどう。</p> <p>もう一点は特養の入所について、川崎市市内での相談などはどうの様に受けているのか。入りたい方の入所へ向けたコーディネートについて伺いたい。</p>
井上係長	<p>具体的な待機期間は市の方でも把握していない様です。区ではそこまでの具体的な数字等は持っていないので確認させていただきます。</p>
長友委員	<p>特養は要介護3以上じゃないと入れない、在宅では難しいというところで、どこの特養にどのように繋いでいくということは市の方では関わっていないという事でしょうか。</p>
井上係長	<p>特養の申し込みに関しては窓口でもご案内しております。</p>
長友委員	<p>案内ではなく、具体的に入るまでのサポートについてはどこかが担当しているのでしょうか。地域包括支援センターではそこまでの案内はしていないのではないかと思います。行政ではどの様な形で対応しているのか。</p>
前村課長	<p>長友委員のおっしゃったような全ての方に対し詳しいやり取りはなかなかでき</p>

<p>長友委員</p>	<p>ておりません。入所までの詳しい御相談に付きましては、各地域包括支援センターが窓口になっていただき、入所するまでの介護サービスの相談を受けていただいております。その中でも対応が難しい困難な事例に付きましては、区役所の高齢者支援係と一緒に相談を受けさせていただいております。</p> <p>私の義理の母も同じように川崎の特養の申し込みをしておりましたが、3年待っても入れず、結局老健や病院などを転々としていた状況がありました。多分250名の方もそういう事態もあるかと思えます。直接包括支援センターが相談に乗っていると言っても、おそらく包括ではどこの特養が空いていて、どうすれば入所につながるのかという情報は持っていないと思います。そうするとやはり区の方がそういった相談、それから特養に繋いでいくという事を行うのが非常に必要かと思えます。その中で今現在はそういった部署や仕組みなどはないということでしょうか。</p>
<p>前村課長</p>	<p>空き状況を確認しながら案内をするというところまでは至っておりません。原因としては、施設の方でも日々状況が変動している中で、状況を把握し続けご案内することは難しい状況でございます。おっしゃったように本人、家族が困っている状況で出来るだけ早く入所をという相談が入ることもありますので、空いたという情報が入った場合は個別で対応することもございますが、そこまでになっております。</p>
<p>長友委員</p>	<p>この問題はずっと長くある課題ですので、出来る限り厳しい状況にある人達を繋げる仕組みが必要かと思えます。地域包括支援センターが地域の中で様々な相談に乗って問題を解決していく立場と位置付けられるなら、そういった本当に困っている方に対して、情報を共有してともに解決していく必要があるのではないかという提言です。</p>
<p>前村課長</p>	<p>ありがとうございます。お困りの皆様出来るだけ沿った形で対応するという事で参考にさせていただき、市全体へ図っていきたいと思います。</p>
<p>吉武委員</p>	<p>今の受け答えの中で確認させていただきたいのですが、基本的には行政では施設に対して確認できないという事ですか。そもそも中原区ではさほどさほど多くないと思います。これが何百件ということになれば話は別ですが。</p>
<p>前村課長</p>	<p>施設に対しての情報のとりまとめは市としてまとめて行っている物ですので、各区の情報という事では難しく、また区で各施設とやり取りをして情報を逐一入手していくという事は出来ていない状況です。</p> <p>保育園などでは入園管理等出来ているのですが、施設の方では出来ていないと</p>

<p>吉武委員</p>	<p>というのが現状です。</p> <p>長友委員がおっしゃられたように、以前からこの問題はある。結局動こうとするか動こうとしないかだけの問題だと。保育園で出来ているのであれば、厳しい事を言うようですが以前から委員が声を上げているのを受け止めていただきたいと思います。</p> <p>取組事項についてですが、ケアマネさんの支援体制の充実というところで、包括でも訓練を色々取組みされていて素晴らしいなと思いますが、何をしたかではなくその結果どうなったのかというところが非常に大切だと思います。その辺りのフィードバックというのはどうしているのでしょうか。</p>
<p>井上係長</p>	<p>相談支援事業として、市の段階、区の段階、包括の段階とそれぞれの意見書が上がっていけば最終的にはフィードバックされるところです。</p>
<p>前村課長</p>	<p>毎年このような取組に付きましては取りまとめて全市で共有させていただいております。また、区内で実施させていただいた取組に付きましては、各々の回議の中でフィードバックさせてもらいながら、次の取組に向けて検討させてもらう流れとなっております。</p>
<p>吉武委員</p>	<p>取組がどうという事ではなく、結果がどう出ているのか。ケアマネさん一人一人が大変という話はよく聞くが、勉強会で逆に時間を割かなくてはならず負担が増えているのであれば意味がないと思う。全員に聞くのは難しいとは思いますが、負担ではなくちゃんと意味のあるものになっているのか、そこまで落とし込む必要があると思っております。</p>
<p>新堀委員</p>	<p>ケアマネの立場から、今まで区全体で研修会が行われていなかったときは包括毎の勉強会に参加しておりました。一人のケアマネは事業所のある包括から連絡があるのですが、実際に仕事をしているのは中原全域という事がある。ですので、いくつもの包括の勉強会に参加して顔をつなぐという事を今までは長くしてきました。私たちの声が届いたからなのかなとも思いますが、区全体で勉強会を開いてくれたことで、一回で済むようになった。また、その場に伺えば今までなじみのなかったケアマネさんともお会いできる機会が出来たのは非常に良かったと思っております。</p>
<p>吉武委員</p>	<p>素晴らしい意見をありがとうございます。こういう報告があれば、聞いた誰もがやって良かったと感じると思うので、これをしっかりと共有して、場合によっては表に出していくという事は、一つの結果になると思いますので、そこまで落</p>

	<p>とし込んでいただけると良いかと思えます。</p>
中村委員	<p>私は今年度からのため、資料の読み解きについて質問させてください。要介護等認定者数が中原区ではここ6ヶ月で198人増えている。これはこれまでに比べて多いのか。自然増なのかこれまでと同様の増加数なのか。</p>
前村課長	<p>傾向としては少しずつ増えてはおりますが、正確な数字はどれくらいというデータを持ってきていないので今日のところはお答えできません。4月では8150人から10月で8348人ですので約200名増えております。</p>
中村委員	<p>今までより今回が増えているのかというところを知りたいです。</p> <p>また、とどろき包括等の様に新しい建物がどんどんできて、急激に地域住民が増えているところがあるかと思えます。地域の掲示板などであまり見ないのですが、そういった新しい住民の方にどうやって地域包括支援センターの事を紹介しているのか教えてください。</p>
川島所長	<p>まず、要介護者の人数については、前年比較を次の会議までに用意いたします。ただ、全体的には65歳以上の人数、全人口も増えておりますので増加傾向にはあるかと思えます。増え幅がいつから始まってどのくらい増えているかについては次回の資料で出させていただきます。</p>
石塚センター長	<p>地域包括支援センターの周知に付きましては、出来ていないところも多々あります。マンションに関しては高層マンションでは民生委員もいないところも多く、個別に相談があったケースに対して相談に対応し周知しております。また、地域の各町会で、報告のところでも紹介いたしましたが、各町会の紹介で集いの場というのを作り出しているところでは、そういったところに顔を出しながら皆様にこういうところがあるのだと話をさせていただき、区役所でやっている集いに参加して包括ではこんなことをやっています等の活動をしています。</p>
村田会長	<p>それでは、次に議題（2）令和6年度地域包括支援センターの取組状況について、各包括さんから報告をお願いします。</p>
すみよし包括 佐藤センター長	<p>活動報告は資料7に報告書と添付の写真を載せております。</p> <p>先ほど委員さんから質問がありました、ケアマネジャーの業務負担の軽減といったところで、研修を全包括合同で行ったことをケアマネジメント支援調整会議</p>

といった形で今年度は開催させていただいております。居宅のケアマネさんだけではなく、地域の支援拠点のセラピストさんや調剤薬局、包括の職員、障害の職員も含めて、新堀委員がお答えいただいたように多職種連携の基盤づくりで回数が減ったという事や、ケアマネさん同士の連携といったところではメリットになっているかと思えます。明確に軽減できたという答えにつながるものでないですが、繋がりが出来たことにより業務軽減に繋がればいいかなと今年度実施してきています。

すみよし包括に関しては新人の職員の入れ替わりが若干ありましたので、職員の離職に繋がらないような工夫をして運営してきています。その中ではセンター独自で、自主勉協会ということで、自分が不安に感じている業務に関して、調べて他者にプレゼンするという能力、包括の職員に必要な能力として取り上げて行っています。区内で同法人の包括がありますので、自主勉強会はみやうち包括と合同で行っております。

今年度の相談課題としては、経済的困難というケースが多かったという意見が多く、特に困窮しているという方を生活保護の申請へ繋げるという事も多かったです。生活保護を受けないと受診も出来ないという方も多くいましたので、そういった方が突出していたというのが今年度の感想です。

苅宿小学校と住吉小学校の2校に対し認知症サポーター養成講座と福祉体験授業を行っております。子供が実際にサポーターとするのは難しいですが、福祉というところへ意識が向いてもらうような内容で行っております。

地域活動では散歩を楽しむ会を令和6年度から実施しております。西加瀬憩いの家に集合して体操して地域と一緒に歩くと言っただけですが、皆さんお話をしながら会を楽しんでいただいております。ただ、課題として新規の参加者が増えてこないというところで、次年度再考して公募の方法を考えていくところです。

最後に今年度新たに木月の輪として保育園、障害者施設、特養で何か連携して出来ないかというところで、NPO法人のシェアドッグスクールにセラピー犬を連れて来ていただいて、今年度は先ず地域の子供たちからというところで単年ではなく、引き続き今後は高齢者の方がふらっと動物に触れあえる機会に発展していければと。最終ゴールとしては包括の駐車スペースでオープンカフェのようなものを開催して、地域の方の集まり場の様になればと、各機関で月に一回ずつ取り組んで参加者も増えてきております。

6年度は大きな問題もなく、区役所の高齢・障害課の協力をいただいて2月までは運営できております。

こだなか包括
佐藤センター長

今年度の主な活動として、年4回のこだなかだよりを作成して、区役所・町内会に協力していただき、回覧板や掲示板に掲示していただいております。他にも老人憩いの家、薬局、病院にも置いていただいて、啓蒙活動を続けているところ

です。

ごうじ憩いの家、しんじょう憩いの家を利用して、サロンとってそこで健康チェックですとか、皆様が集まって楽しんでいただける企画を介護予防として行っております。その中で、理学療法士さんやそういった専門職の方を呼んで、体操等を教えてもらうような場所を作っております。悩み事として、地元の方が強く、新しく転入してきた方の開発がまだ十分できていないことがあります。

職員の入退所が多く、やりたかった計画がすべて出来たわけではない。地域ケア会議などが開催できず今年度は終わりになります。

大戸第二地区の民児協とは毎月会議に参加させてもらい、お互いの報告をしております。また、来月は認知症サポーター養成講座を開催させていただきます。来年度も民児協のメンバーが交代になりますので、新しい方を対象に認知症サポーター養成講座を開催させてもらえればと思っております。

先ほどすみよし包括さんからご報告がありましたように、相談支援ケアマネジメント連絡会において、6包括合同で参加出来たことで、私たちも勉強になりましたし、ケアマネさん達も大勢参加いただけてとてもよかったです。

虐待対応についても、家族や支援者と共同的して、解決に向けて話し合いを継続的に行い支援しております。このグループもケース毎に関わる方が変わりますが、顔の見える関係を構築しながら支援をしております。長いケースになると3年以上継続しているケースもあります。

こだなか包括は事業所が非常に狭いのですが、窓に様々なチラシを掲示したところ、通りすがりの方などから反響があり、広報できる環境づくりが出来たと思っております。

ひらまの里
松林センター長

昨年度から認知症に対する普及啓発を行っております。今年度は資料一枚目の写真にあります、子供が夏休みの自由研究課題に出来るよう、親子での認知症サポーター養成講座として、とどろき包括からも報告にありました、玉川小学校と下沼部小学校のわくわくプラザで認知症サポーター養成講座をやらせていただきました。認知症サポーター養成講座を受講すると以前はオレンジリングというのをあげていたのですが、経費の関係で今はカードになっています。しかし、お子さんたちがカードを貰っても嬉しそうではないという事で、ロバの人形を作って渡しています。そのロバの人形ですが、地域の下沼部小学校やその卒業生の母親を中心にロバ隊という集まりを作って縫っていただきました。最高齢で90歳を超えている方、若くても60歳くらい、毎週木曜日にやってくれるのですが、一日で大体20個くらいは作っていただきます。準備などで職員も大変ではあるのですが、そこに来て話をして今度は認知症サポーター養成講座の際にその方から配っていただくという形が取れると世代交流も出来るかなと思いいまやっております。

次に2枚目の写真になりますが、織戸組献血イベントと書いてあります。地域企業の織戸組さんというところが、毎年集団献血で献血車を4台も呼んで献血されているのですが、そこにひらまの里のブースを作ってください、そこで相談会を行っています。また、そこに福祉用具会社の方に福祉用具を持ってきていただいて、高齢者だけではなく若い方もこういうものがあるんだよって知っていただく催しを開催させていただいております。

同じ地域内に中原看護小規模多機能ホームというところがあって、そこで生活支援コーディネーターさんと共同で、毎週金曜日にひらまの里店舗？ウォーキングということで平間公園という大きな公園まで歩くという事をしております。そこにはロバ隊の方も参加してくださるようになるなど、人数が少ないときもありますが、継続することで地域の方にまずはここでやっていると知っていただけるようにと思ひ実施しております。

1枚目のゆりの会や上平間第二協会老人会等で福祉用具の事業所さんにご協力いただき、スマートフォンで歩く姿勢を撮って、どういう歩き方をしているかというのを目で見える形で紙に出していただいて、それを半年に一回やることで、改善するよう年二回各老人会で行っています。

地域圏域会議の時に町会長や民生委員さんだけでなく、介護保険の事業所さん、他にも地域でNPO活動をされている方等にも来ていただいて、地域の情報共有や顔の見える関係性を作るように心がけて今年度は行ってまいりました。来年度も同じように行っていければと思っています。あと、ケアマネジャーさんだけでなく、社会福祉士さんの相談援助や保健士さんを積極的に入れて地域に自分たちだけではなくそういう方たちが入れる状況を作っていければと思っています。

みやうち包括
水野センター長

令和6年の事業計画に掲げました重点目標の一つ目が、地域介護予防ケアマネジメントの充実というところで、介護サービスの相談を受けた段階で直結するのではなく行政で出していただいているお出かけマップや地域資源の活用、当該センターの主催事業への参加を促すことで、新たに高齢者の社会への参加に繋げ、地域の中で共生できる仕組み作りを目指してまいりました。

包括支援センターが設置当初から行っている主催事業になりますが、月に二回今年で15周年を迎える中原区パンジー体操を中心に介護予防の体操を行っております。

サロンを文字って茶ロンとしている事業ですが、設置当初の平成18年から参加して下さっている方が2名おります。これは閉じこもりを予防したり、運動不足解消にとどまらず、地域の方がお互いに声を掛け合って参加していただいて、皆さん同士で地域の中で元気でやっぴこねと、地域を好きになってもらう事業として一定の成果として捉えられるんじゃないかと思ひます。

いだ包括 横山センター長	<p>次に地域の特性を生かして、地域のつながりを強めるという事に関しては、町会や民生委員の方々を中心に、今年度も第二回は来月を予定しておりますが、圏域会議というものを設けて、民生委員さんや町会さん以外にも、今日お越しいただいているグループホームの方ですとか、居宅介護支援事業者さんにお越しただいて、地域の課題についてどういう風に連携を深められるのかという話を重ねております。それ以外にも、宮内地区に限定した物ではありませんが、公園清掃や文化祭、一人暮らし会食会に参加するなどして、包括が相談窓口ですよという周知に努めるようにしております。</p> <p>先ほどから各包括さんの発表で出ていますが、地域を支える人の教育、育成に努めるという部分では、令和5年度に引き続き、隔月6包括合同で事例検討会を共催で行っております。関係機関と連携を深めたり、ケアマネさんの支援も大事な柱の一つではありますが、我々包括支援センター職員のレベルアップを目指してやってまいりました。うちの包括に関しては、今年度は欠員2名というところからスタートし、全4名のうち障害から移動してきた職員が2名という限られた職員体制の中で、予防プランに追われたり、自己研鑽の場を十分に持つことが難しい中で対応しておりました。そのため、すみよし包括の佐藤センター長から話が合ったとおり、同じ法人内で合同勉強会の場を持ち、その中で聞くだけではなく、自分で発表したり発言の機会を持つことで、マネジメント力だけではなく、支援者としてご利用者さんや相談者の方にきちんと伝えられる力を身に付ける場を設けております。</p> <p>それ以外に、民生委員さん主催コミュニティサロンや、自分たちの主催事業で認知症を予防するために発足したのんびりウォーキングや健康マージャンでうちの施設で開催して包括の周知に努めております。</p> <p>また、別紙2にあるように、yorisoi 便りがうちのセンターの機関紙になっておりまして、先ほど申し上げたのんびりウォーキングですとか、茶ロン、健康マージャンの様子を広報しております。</p> <p>今年度の重点目標として、高齢者の集いの再開・開拓ということで、主催事業と共催事業をまとめさせていただきました。主催事業としては、前回もお伝えした、カスタリズムというカスタネットを使ったリズム体操を高齢者の方に対して毎月行っております。昨年5月に最初の一回目を行い30数名お越しいただきましたが、その後20名、10名と減ってきてしまっています。だいぶ苦戦しておりますので、広報の仕方が悪いのか、カスタリズムチャンネルとしてYouTubeに動画を上げております。再生数が伸びていないので皆さまもぜひご覧ください。また知っていただいている人が少ないのだと思うので、来年度はもう一カ所開催場所を増やそうと考えております。これでダメならまた別の方法を考えなくてはならないですが、これで何とかしたいと思っております。</p>
-----------------	--

<p>とどろき包括 石塚センター長</p>	<p>また、歌声喫茶を10年程前からすみよし包括さんと共催で二ヶ月に一回、憩いの家で行っています。こちらは順調に毎回30名ほどの方にお越しいただいております。ただ、この事業のリーダー、ボランティアの方ですが、だいぶお年を召されておりますので、先日も手術があり休む等、今後どうなるのか課題がありますが続けていきたいと思っております。健康マージャンも10年程前から開催しております。こちらも安定して30～40名の方にお越しいただいております。</p> <p>また、お近くの民生委員さんの持ちマンションに空き部屋があり、そこで何かやって欲しいと話を頂いております。カスタリズムをやりたいかかったのですが、騒音の問題で難しそうだと。代わりに健康マージャンを行う予定としてます。来年度からは行えると思っております。</p> <p>地域包括支援センターの広報活動としては、先ほどもお話ししたYouTubeチャンネルを配信しております。今年度お休みしていた包括チャンネル、包括チャンネルとは皆様から御相談が多い福祉用具だったり、配食弁当の情報を配信しているものです。お弁当の方は好調で再生回数も1000回を超えていたのですが、今年度はネタ切れで休んでおりました。ご協力いただけそうなお弁当屋がまた出てきたので、現在交渉しており、来年度は包括チャンネルを復活させたいと思っておりますのでそちらの方もご覧いただきたいと思っております。</p> <p>コロナ禍に民生委員の改選があり、引継ぎがうまくできなかったため、民生委員さんからの相談が減っているという状況がありました。そのため、地域の方が気軽に相談できる場所として地域包括支援センターがあるという周知を目標にこの二年は活動しておりました。民生委員さんに対しては毎月小杉第二民協に参加させてもらい、その都度お話をさせていただいております。また、中原区役所が担当地域に入っているのので、区役所主催のお祭りやイベントなどに参加させてもらい、そこで地域の方たちに周知をしていくという事を今年度は初めて行いました。</p> <p>認知症サポーター養成講座に関しては、毎年近くのイトーヨカドーとグランツリーの方のイトーヨカドーさんからお話を頂けるように連絡をとり、今年度も開催することが出来ました。また、うちの地域は小杉小学校と今井小学校があるのですが、昨年からそこにアプローチしてサポーター養成講座を出来ないかと話をさせてもらう予定です。次年度には行いたいと思っておりますが、現時点ではまだできていないので、それぞれのわくわくでは認知症サポーター養成講座を行わせてもらっております。</p> <p>閉じこもりの方にも多いという事で、ウエスの会ととどろきサロンということで、近くの方で来られる方はお越しくださいと、月に二回と一回開催させてもらっております。</p> <p>地域ケア会議は地域の問題について地域の方とお話しさせていただくという形</p>
---------------------------	---

	<p>で年二回行わせてもらっております。その中で、私どもの地区は高層マンションが多く、他の地区とはまた違った地域課題や町会の在り方があるというところで、災害をどうしていくのかなどを含めて話し合っております。簡単に答えが出る問題ではありませんが、皆様の意識付けというところで、地位の方と連携を図れるのではないかと思います。</p> <p>地域のボランティアについて、それぞれの町会などで小さいながらも皆さま頑張ってお金をかけないで使える場所が社協さんや有料老人ホーム等多くなく、ボランティアの方が行っている場所も有料のところがあり、先細りとなってしまっているところもあります。これから先に考えていかなくてはならないのは、町会やボランティアさん達と新しい場所の開拓をしていかなくてはならないという事もあるかと思います。</p>
村田会長	<p>ありがとうございました。只今、各包括支援センターからの説明がありましたが、これについて、各委員の皆様から御意見等ございましたらお願いします。</p>
長友委員	<p>二点だけ質問させてください。一つ目は、相談の内容に関して。支援困難な方や虐待、経済的な困窮の方からの相談が多いということですが、そういった相談に乗っていくためには、相談を受ける側がスキルや体制、時間的な余裕などの「人物金」が必要かと思えます。以前、包括支援センターの調査をしたことがありますが、困難な相談業務だけではなく介護予防という予防の方の仕事もしなくてはならない。業務が非常に多岐に渡っており、限られた人、時間、予算の中で現実的に対応しきれないという中で職員が辞めて行ってしまうことが大変多いという調査結果が出ております。</p> <p>地域で定着して相談に乗っていくためには、それなりのスキルを持った経験豊富な方が大切になるかと思えますが、その人材が確保出来ないというところが現在の地域包括支援センターの厳しさの背景にあるのではないかと。ご報告の中で、色々な研修を設けたという報告がありましたが、スキルアップなどを目指す機会を作る時間も極めて厳しい状況にあるのではないかと。また、実際にその機会が足りているのかと。私は社協の方と協力してこういった研修なども行って来たことがあるのですが、そこに参加する地域包括支援センターの職員さんやケアマネさんの中には自分でお金を払ってきている方がいると。さらにその後、個別事例検討会でのスーパーバイザーとして参加させていただいたのですが、その費用も皆で出し合っていますなんていうことがあった。皆さん仕事として、地域住民の</p>

	<p>方のためにもものすごく一生懸命やろうという意欲を持って関わってらっしゃるとは思うのですが、現実辞めて行ってしまう人も多くいるという事で、現場としてそういった機会が足りているのか、もっと必要なんじゃないかと思うのですが、皆様の考えをお聞きしたいです。</p> <p>必要であれば、やはりそれなりの研修をやるお金や機会を行政が整えることが必要かと思えます。一つ目は以上です。</p>
<p>いだ包括 横山センター長</p>	<p>研修に関しては市の方から研修費としてしっかり割り当てられております。それに合わせて研修に参加するという形を取らせていただいております。また、無料の研修もかなり多くあるのでそちらの研修に行くこともあります。</p>
<p>長友委員</p>	<p>それで十分でしょうか？</p>
<p>いだ包括 横山センター長</p>	<p>もちろん予算は多く貰えれば貰えるほどありがたいと思います。多く貰えればその分多く行くことは出来ます。</p>
<p>すみよし包括 佐藤センター長</p>	<p>研修に関して申し上げますと、今中原区の包括では横のつながりが強く歴も長くやってこられております。ですので、中原区では今年度で言えば新人、新任の職員に対して全包括で法人の枠も超えて新人研修を実施してきております。研修内容に関してもそうですが、何よりもまずは横のつながりを作って、離職しないよう仲間作りの目的も含めて中原区では実施しております。</p> <p>川崎市に関しては先日説明がありましたが、地域包括の職員のスキームごとに来年度から研修が整理されてきており、川崎市の地域包括ケア推進室発信なのでお金もかからず、包括職員のレベル別の研修が整理されたと聞いております。その辺りで持続していけるのではないかと思います。</p> <p>事業費に関しては先ほどどろき包括さんの話にもありましたが、何かをやる時の場所代といったところで、単独包括で行うのが難しい部分もあります。ですが、中原区に関しては他の包括と合同して負担を折半するなど、単独で出来ないところを合同で出来ているといったところでは、充実とまで言うかは分かりませんが、今まで無かった形のチームにはなってきているのかなと思います。</p> <p>離職に関しても他区に比べると、そこまで多くないのかなと肌感覚ですが思っております。それはやはりそれぞれの包括の連携と、地域の民生委員さん、ケアマネさんなどの連携が強くなっているのも裏付けになるのかなと思います。</p>
<p>中村委員</p>	<p>私は看護師だったのですが、やはり教育にかけるお金は看護師では凄かったです。一年目には必ず先輩が付っきりで一年間みっちり教育をします。それくらいお金をかけられています。介護の現場でも経験のない方にはもっとそういう面では予算を使って、業務として研修の場を与えられるともっと質が高くなるので</p>

<p>長友委員</p>	<p>はないかと。可能であればそれくらい予算を組んであげて欲しいと思います。</p> <p>二点目について、これからの地域包括ケアシステムや包括支援センターの位置づけに関連して、これからの支援は公助、共助、互助、自助の四つが求められています。この中で特に互助の部分、地域の中で支えていく仕組み、特に中原区で危惧される部分は、先日報道もされておりましたが町会が無くなってしまいう地区があると。また一方では、これまで地域の支えとなっていた民生委員がなり手がいなくて困っていると。その中で地域包括支援センターは中心になることが求められている。その時に、地域の人とどの様に繋がりを持ちながら支援をしているのかという、町会や民生委員さんとは別に、具体的なアイデアを持っているのか、事例があれば教えていただきたい。</p>
<p>すみよし包括 佐藤センター長</p>	<p>今のご質問について、先ほどひらまの里包括の報告にありました、地域支援コーディネーター（SC）さん、SCさんが小規模多機能さんに設置されていて、まだまだスタートの段階だと思いますが、SCさんに関わる中できっとこれからはSCさんが橋渡しをして互助の関係の発展に繋がっていくのだなという事を徐々に感じてきております。そういったSCさんを介して、力ある方々が繋がって互助が発展していくのが理想ではあるのだなと。まだまだではあるが、圏域会議に参加してもらったり、民生委員さんの会議に参加してもらったり、SCさんがこれからもっと設置が増えたり活動が濃くなっていくと、そういった地域の方々とのつなぎ役になってもらえるのかなと。まだまだ単年でどうこうといった状態ではないが、自助、互助といった部分ではSCさんの活躍が期待できるのではないかと思います。</p>
<p>川島所長</p>	<p>今のお話に追加で、川崎市の組織の構造として、本庁に地域包括ケアシステム推進室というのがあり、各区に地域ケア推進室というのがございます。そこは私どもの地域みまもり支援センターという部の中になるのですが、そこには保健師のいる地域支援課や高齢・障害課、保護課、保育園の入園あっせんをしている児童家庭課があり、学校と保育園全ての児童から高齢者まで担当がついております。その中の地域支援課が主体となり地域に出ていき、町会さんや民生委員児童委員さん包括さんと一緒に、地域の事を考える会を設けたり、地域の中で活動されているところをマップなどに落とし込んで、こういう資源が地域にはあるのだというのを、現在幸区と麻生区でモデルとして始め、るるぶでそういう高齢者向けの地域資源というのをご紹介しています。各包括さんもどんどん広報していただいて、地域の方と連携して地域包括ケアシステムを推進していければいいかなと思っています。</p>

長友委員	その仕組みに地域包括支援センターの方たちも入って一緒に、という事で進めているという事でしょうか。皆さんそこに参加されていると。
川島所長	そうです。要支援の方達を今ある身体機能を保っていただいて、要介護に重症化させないような取り組み等も考えながら包括さんと一緒にモデルでやっているところもあるので、今後はそちらの事業も強く推進していく形になっていくと思います。また、そういうことがお知らせできるようになりましたら、こちらも周知したいと思います。
村田会長	<p>ありがとうございました。さて、本日の議事は以上ですべて終了しましたが、「その他」として最後に全体を通して何か意見等はございますか。</p> <p>それでは委員の皆様、円滑な議事の進行にご協力をいただきありがとうございました。これで議事を終了させていただきます。ここからは進行を事務局にお返しいたします。</p>
前村課長	<p>委員の皆様、熱心なご審議をありがとうございました。</p> <p>最後に事務局から事務連絡がございます。</p>
井上係長 14:00	<p>皆さま、ありがとうございました。今年度の運営協議会は本日で終了でございます。来年度の運営協議会については、今のところ9月末か10月末のこの時間帯で調整したいと考えております。委員の皆様には改めてご案内させていただきます。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
前村課長 14:30	<p>それではこれもちまして令和6年度 第2回中原区地域包括支援センター運営協議会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。</p>